

第 34 回 廃棄物資源循環学会研究発表会の開催にあたって

第 34 回 廃棄物資源循環学会研究発表会
実行委員会委員長
大阪工業大学 教授 渡辺 信久

学会は、情報交換の場であるとともに、「出会い」の場でもあります。それまで文献を通じて一方的に知っていた学者・技術者の発表を目の当たりにし、聴講後の「突撃」で、新しい境地を切り開くのです。「出会い」は、一堂に会する対面実施の最大の魅力であり、「コロナ明け」の2023年に、大阪に皆様をお招きできること、この上ない喜びであります。



第34回研究発表会は、これまでの関西での実施(第4回 大阪、第6回 神戸、第13回 京都、第19回 京都、第27回 和歌山)に続く6回目であり、大阪での大学では、ここ大阪工業大学での開催が最初となります。

研究発表総予定件数284件(口頭発表 197編、ポスター発表 87編)に加え、特別プログラム、国際シンポジウム、12の企画セッション、37の企業展示・10の市民主催展示・分解ワークショップ、3コースの見学ツアーも行います。今年の口頭およびポスター発表は、日本語と英語による発表とし、国際的相互理解の促進を図ります。英語でのエントリーは昨年の27件から48件と倍増しました。韓国廃棄物学会からの参加もありますから、会場でのハングルー英語-日本語での通訳を通じた議論も飛び出すものと期待しています(한국폐기물자원순환학회 회원여러분도 참석하기 때문에 행사장에서 한국어-영어-일본어 로 활발한 논의가 이루어질 것으로 기대합니다.)。

コロナ禍で培ったオンライン技術で、口頭発表を配信いたしますので、遠隔でのご参加もお待ちしております。国際シンポジウムではリモート発表も可能な仕様としております。

特別プログラムは「技術も心も最先端：プラスチックやごみ排出をとりまく最新動向」です。大阪万博の開催を意識したプログラムですが、皮肉にも、「技術ですべてを解決する」のではなく、再生可能・海洋プラ問題も絡んで、ここにきて、「こころ」すなわち意識・志向の重要性にあらためて気づく・・・そんなシナリオを思い描いています。配信します。

意見交換会では開催地・開催校ならではの特産品も用意しております。食の地：大阪ですから、ご期待に添えるものと自信を持っております。親交を温める場を提供できるよう、大阪を挙げて、歓迎申し上げます。

最後になりますが、本会は、実行委員会50名余りと、その母体である関西支部(本年で20周年となります)諸氏の尽力の賜物です。皆様にも、このことを、是非ともお知りおきいただきたく、文末に添えさせていただきました。